
死神と紫羅欄花

筈太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死神と紫羅欄花

【Nコード】

N1339Q

【作者名】

筍太郎

【あらすじ】

短編なのであらすじはあえて省きます。

死神に、君は明日死ぬけどその前に一つだけ願いを叶えてあげようと言われた。

少年は死神に会っても驚かなかった。

なぜなら、少年は不治の病を宣告されていたからだ。

だから少年は、むしろ願いを叶えてもらえることがありがたいと思っただ。

少年は考える。

死の前に自分がしたいことはなんだろうと。

死ぬのを取り消してくれと言っても聞いてやることは出来ない、と死神は言った。

死の延期もまたしかり、と。

少年も別にそこには突っかからなかった。

それが通れば死神は食いつぶれてしまうだろうと思ったからだ。だから少年は考える。

自分は果たして何をしたいのだろうか、と。

そんな時、少年にお見舞いがやって来た。

わざわざあんたのために選りすぐってきたのよと言いながら花束を得意気に掲げて見せたのは、一人の少女。

来るたびに『まだ生きてたの？』と嬉しそうにため息をつく、少年の幼なじみ。

ああ、こいつ、明日はなんて言うんだろうな、と少年は思う。

『ようやく死んだんだ』とか言っただけ泣くのかな、と思う。

そして少年は、気づいた。

ああ、やだな、と。

俺、こいつに泣いてほしくないな、と。

気づくのが遅すぎたが、それでも少年は気づいてしまった。彼の中に眠っていた、そんな想いに。

だから。

少年はその夜、死神に言った。

俺の願いは、あいつの願いを叶えてやってほしいってことだ、と。
死神は聞き返した。

それでいいのかい、と。

少年は、ああ、とだけ答え、それから眠りについた。

明日が来ないことを覚悟しながら。

……そして。

少年は、日の光の眩しさに目を覚ました。

目が、覚めてしまった。

少年は、おかしいなと思う。

約束が違うじゃないかと思う。

だが、少年はふと気付く。

それは、一枚の紙切れ。

彼の幼なじみが持ってきてくれた見舞いの花を活けてある花瓶の下
に挟まれた小さな紙片。

少年はそれを取り上げて……

そして、小さく笑った。

なんだよちくしょう、と呟きながら見舞いの花を見た。

それに書かれていたのは、たった一言。

『アラセイトウの花言葉は、永遠の愛』

……そして。

少年が退院することになるのは、この三日後の話だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1339q/>

死神と紫羅欄花

2011年1月16日01時29分発行